※※

今日の力

※※

2014年5月5日～5月11日

翻訳　　藤 岡 伸 子

編集　　岩 田 欣 三

この冊子の聖句は，新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

5月5日（月）

この世では味わえない喜び

聖書朗読　　ヨハネ　１４：１～１４

わたしの父の家には，住まいがたくさんあります。もしなかったら，あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために，わたしは場所を備えに行くのです。

ヨハネ　１４：２

私の子ども時代の一年の大イベントと言えば，夏休みに祖父母に会いに行くことでした。祖父母にとっても，それは，一年の一大イベントのようでした。祖母は，冷蔵庫を私の好物で一杯にしておいてくれ，祖父は釣り道具を出していつでも釣りに出られるよう準備をしておいてくれました。祖父母は，私が到着したときには，全てが整っているよう周到に準備をしてくれていたものです。祖父母の家ほど快適で心が安らぐところは，他にありません。

ヨハネ14章のキリストのみことばを読むと，祖父母のことを思い出し，彼らが私とともに過ごすことを心待ちにしてくれていたことを思います。イエス様はこうおっしゃっています。私たちの場所を準備するために行かれるのだと。イエス様は私たち一人一人にそうおっしゃっています。ただ人類全体に語られたものではなく，また，神様がただ誰かしらが神様のもとに来ればよいと願っておられるのではなく，私たちめいめいに場所を備えて待っておられるのです。イエス様は，天国がただ私たちの目指す目的地というのではなく，私たちが心から自分の故郷なのだと思えるようになることを願っておられます。天国は、私の祖父母の家のように喜んで迎えてくださるところ，そして、永遠に平安だと感じられるところとなるでしょう。

今日お話したことから，讃美歌の一節を思い出しませんか。「この世は故郷ではなく，ただ通り過ぎているところ…。」

讃美歌　　486

祈　り　　親愛なる主よ。この世のあらゆる楽しみに心を乱されることがないようにしてください。これまでにない平安と喜びを見出す場所が，私のために備えられていることを思い出させてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ケリー・ウィリアムス

アーカンソー州　ヨネスボロ

5月6日(火)

イエス様を信じることができますか

聖書朗読　ヨハネ　１４：５～１８

主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

詩篇　３７：４

神のご契約には，私たちにはとうてい信じられないようなものがあるのではないでしょうか。イエス様が弟子たちに語られた言葉は，彼らにとってまさにチャレンジだったのではないでしょうか。彼らは最終的には，イエス様が間もなくこの世を去られるということを受け入れられるようになりましたが。今の時代，信仰は衰微する一方，思いつく限りのあらゆる悪弊が社会に蔓延しています。犯罪，暴力，不道徳，個人の絶望感。そして，当時の弟子たちと同様，私たちも霊的なチャレンジに直面してはいないでしょうか。

この世の至る所を見渡してみてください。イエス様から与えられた課題は，次のことにあるのではないでしょうか。『あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ，またわたしを信じなさい。』（ヨハネ１４：１）。このことは，喜びを持って実践するものであり，また，何よりも信頼して従うものでなければなりません。このような信仰を持つことこそが，最も純粋な信仰のエッセンスと言えるでしょう。イエス様はあらゆるところで，イエス様に従う者たちにこのような信仰を求めておられます。

私たちは，困難なこの世の中を変えることが出来たらと思えば思うほど，自らの限界に気づかされます。けれども，私たちにはそれぞれ，イエス様のご契約は永遠に続くということを信じる信仰が与えられています。このようなご契約を信じて生きることによってのみ，イエス様が戻ってこられまでの間，この困難な世を生き抜くことができるのです。

讃美歌　527

祈　り　親愛なる主よ。信仰を増し加えてください。私たちの目を常にイエス様に向け，主のメッセージを心の耳で聞くことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

キース・S・ホッジス
テキサス州　マーシャル

5月7日（水）

私　は　戻　っ　て　く　る

聖書朗読　ヨハネ　２０：１～９

シモン・ペテロも彼に続いて来て，墓に入り，亜麻布が置いてあって，イエスの頭に巻かれていた布切れは，亜麻布と一緒にはなく，離れた所に巻かれたままになっているのを見た。

ヨハネ　２０：６～７

今日の聖書箇所は，私がこれまでずっと不思議だなと思っていた箇所です。なぜヨハネはイエス様の頭に巻かれていた埋葬用の布が，身体を覆っていた亜麻布とは別に置かれていたことをここで書いているのか。何かしら意味があるに違いないと思って，ずっと気に掛かっていました。ところがある時，私の友人が，次のような事を教えてくれたのです。ユダヤ人は皆，家の主人が食事を終えると口の周りと髭と手をナプキンで拭き，それを別にして置くということを知っています。けれども，もしそれをたたんで置いたなら，それは主人がまた食卓に戻ってくるサインなのだそうです。

ナプキンを丁寧に畳んで別にする。これを聞いてやっと意味が分かりました。つまりイエス様は，食事を終えられたのではなく，また戻ってくるということを私たちに示されたのです。主は戻って来られる。使徒の働き１：１１で天使によって語られた約束どおりに。

畳んで置かれたナプキンには何と素晴らしいしるしがあるのでしょう。イエス様は戻って来られるのです。その時，イエス様は私たちを集められ，天でともに食事をされるのです。甦られた救い主とともに永遠の食卓に就くことを望まない人がいるでしょうか。いないでしょう。

讃美歌　174

祈　り　主なる神様。イエス様ご自身と，そしてこの世に来られ，死なれ，甦られ，天へ戻られた主の御愛，さらに，戻って来られることを私たちに約束されたことにいつも驚きを覚えます。この希望をもって，主を褒め称えます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

グローバー・シップ
テキサス州　オースチン

5月8日（木）

人生の思いわずらい

聖書朗読　ヨハネ　２０：１９～２３

「平安があなたがたにあるように。」　ヨハネ　２０：１９

我が家の子どもたちがまた引越しをすることになりました。引越しはとてもわくわくする事ではあるのですが，引越し作業は大混乱となり，また，今後のことが不安になるものです。絶えず変化を伴う人生は，しばしば自分の計画通りには行かないものではないでしょうか。天井まで積み上げられた段ボール箱を見つめて，ただ，全てが滞りなく済むようにと願うばかりです。

イエス様に当時従っていた者たちは，イエス様の死によって，この世が全く逆転してしまったと，今後のことをどんなにか思い煩ったことでしょう。私たちと同じ様に。今日の聖書箇所で，彼らは主を失うという悲しみに打ちひしがれると同時に，彼らをまだ捜しているユダヤ人を恐れていたため，屋内にのがれ戸に鍵を掛けていました。そんな時，イエス様が現れ最初に語られた言葉は「平安があなたがたにあるように」というものでした。イエス様は彼らが一番聞きたいと願っていた言葉をご存知だったのです。イエス様は，彼らに，何事も心配することはないということを確信させるためにやって来られたのです。彼らに平和をお与えになるために。

我が家の子どもたちの引越しのときのように，あるいは，あなたが思い煩いの只中にあるとき，イエス様はご自身が平和の存在であることを私たちに気づかせてくださるのです。主を知ることこそがすべての答えです。人生の困難はすぐには消え去ってくれないかもしれませんが，私たちの理解力を遥かに超えて与えられる平安はいつもそこにあるのです。

讃美歌　第二編　238

祈　り　お父様。あなた様の平和を感謝します。あらゆる物事の只中にあって，あなた様が私たちに平和を語っておられることを思います。

イエス様のお名前によって。アーメン。

シェリー・リームス
テキサス州　ラボック

5月9日（金）

信仰の賜物

聖書朗読　ヨハネ　２０：２４～３１

だれでも，思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや，むしろ，神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて，慎み深い考え方をしなさい。

ローマ　１２：３

神様は，私たちに数え切れないほどの恵みを与えてくださっています。私たちの命，日々の必要，家族，そして愛を与えてくださっています。さらに，信仰という霊的な賜物をもお与えになりました。

私たちは，信仰について，自分の側で何かをすることによって神の子とさたと思いがちで，信仰さえも与えられた賜物であることを忘れがちです。

トマスは，主のよみがえりという信じ難い事実に直面したとき，このように言いました。『私は，その手に釘の跡を見，私の指を釘のところに差し入れ，また私の手をそのわきに差し入れてみなければ，決して信じません。』　イエス様が弟子たち，トマスにも姿をお現しになり，そのとき，トマスはこの事実を受け入れたのです。イエス様は，トマスが信じるための状況を整えられた上で，信仰という賜物を彼にお与えになったのです。

イエス様は私たちにも同じ様になさいます。イエス様のしるしについて，『これらのことが書かれたのは，イエスが神の子キリストであることを，あなたがたが信じるため』（ヨハネ２０：３０～３１）とあります。また，パウロはローマ人への手紙の中で，私たちは，『神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて』自分自身について考えるべきだと述べています。神様は，私たちが神様を信じるのに必要な信仰を，それぞれにお与えになっているのです。

讃美歌　276

祈　り　御在天のお父様。あなた様の素晴らしい賜物，とりわけ信仰の賜物を感謝します。私たちが信仰を確信する経験と，私たちの信仰を成長させてくださるイエス様の御業のしるしを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ビリー・シルビー
カリフォルニア州　ロサンゼルス

5月10日（土）

聖　書　の　百　人　隊　長

聖書朗読　　使徒　１０：１～８

翌日，シドンに入港した。ユリアスはパウロを親切に取り扱い，友人たちのところへ行って，もてなしを受けることを許した。　　使徒　２７：３

聖書における百人隊長の描写はとても興味深いものです。百人隊長というのはローマ軍のプロの将校で，100 人の兵士を指揮する者であり，通常は一つの地点に長期間配属されていました。彼らは残虐な振舞いをしても赦されるほどの偉大な権限を持っていたのですが，彼らについての聖書箇所を見ると，いつも良きものとして，あるいは，肯定的に捉えて描かれていることが分かります。

マタイ８：５～１３には，イエス様が謙虚で主に敬意を表す百人隊長に驚かれ，このようにおっしゃいました。『わたしはイスラエルのうちのだれにも，このような信仰を見たことがありません。』　マルコ１５：３９では，『この方はまことに神の子であった』という重要な告白が描かれています。使徒２２：２５～２８では，パウロが鞭打たれそうになったときに，パウロを救った百人隊長が登場します。また，使徒２３：１６～１８では，百人隊長がパウロの指示に耳を傾け，待ち伏せから彼を救いました。キリスト者となった最初の異邦人は，百人隊長コルネリオであり，彼のみならず家族もみな神を恐れかしこんでいました。

百人隊長というのは，権威がいかなるものかを理解し，優れた指導者がどのような事を意味するのかをわきまえていました。彼らは命を重んじ，誠実であることを尊重しました。そして彼らは，キリストとその弟子たちに対しても同じ姿勢でのぞんだのです。なぜなら彼らも特別で誠実な存在だったからです。百人隊長らのこのような信仰を持って，キリストに従うことを選びましょう。

讃美歌　501

祈　り　主よ，父よ。あなた様の聖なるみことばをしっかりと信じることができるようにしてください。あなた様の真理を信じ，追い求めたこのような百人隊長らの信仰を私にも持たせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

チャールズ・キース・キング
カンザス州　キングマン

5月11日（日）

答　え　ら　れ　な　い　問　い

聖書朗読　　ローマ　１１：３３～３６

神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は，なんと多いことでしょう。
それを数えようとしても，それは砂よりも数多いのです。

詩篇　１３９：１７～１８

皆さんは，自分が神様のなさることをいかに理解できていないかということに気づかされることはないでしょうか。また，自分の信仰は，答えが与えられるよりも，問いの方が多いと感じることはないでしょうか。もしそうであっても，それはあなただけではありません。１世紀のローマ時代のキリストを信ずる神の家族たちも，多くの問いを抱えていました。――もしイエス様がイスラエルの救い主であられるなら，なぜイスラエルの多くの者たちがイエス様を否定するのか。神のイスラエルの民とのご契約はいかにして異邦人にも当てはめられるのか。生き方の全く異なる，キリストに従うユダヤ人と異邦人は，いかにして共に生き，共に礼拝することができるのか。

ローマ人への手紙の中で，パウロはこうした疑問に対して，彼らを勇気付ける答えを示していますが，１１章に至るまでの説明の中で，神のなさることを完全に理解するにはとうてい力が及ばないことを認めています。

けれどもパウロはこのことを嘆いてはいませんし，信仰が弱いのだと自らを責めることもありません。その代わり，神に讃美の歌を捧げるのです。パウロは自らの理解力に限界があるからこそ，神の英知の深さを思い巡らすのです。パウロは，神と比べて自分がいかに弱いものであるかを知ることで，ますます神への愛が深められるのです。たとえ答えの分からない問いがたくさんあっても，それでフラストレーションを抱えるのではなく，返ってそれによって神を褒め称え讃美するよう導いていただきましょう。

讃美歌　30

祈　り　親愛なる主よ。あなた様の御愛と知恵は私の想像を遥かに超えるものです。少しでも理解力を深めてください。そして自らの理解力の限界を知るとき，どうかひざまずいて礼拝することができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

パトリック・メザー
ノースカロライナ州　ダーハム